

質問書に対する回答

(件名) 長野自動車道 一本松トンネル補強工事

No.	質問箇所	質問事項	回答
1	設計図 43/121	12-(12) 路盤排水工中央排水工BI、B2に関して、43/121仮設舗装工計画図に高密度ポリエチレン管布設箇所の粒度調整路盤工B(t=20cm)を示す記載がありません。布設後の埋戻しには、粒度調整路盤工範囲を含め掘削残土を使用するのでしょうか。	設計図41/121に示すとおり、中央排水工B1、B2の布設後の埋戻し材はC-40で行い、その後、設計図43/121に示す仮設舗装を施工するものとしています。
2	特記仕様書	23-3-1捨土掘削(2)数量の検測において、「インバート掘削の地山」数量が含まれる内容の記載があります。一方、P.55(8)ずり処理工 1)定義においては、トンネル掘削により生じたずりの自工区外盛土場への運搬は、ずり処理工に含まれる内容の記載があります。インバート掘削土の更植ICから自工区外盛土場までの運搬は、捨土掘削土砂B(A)とずり処理工のどちらに項目に含まれば宜しいでしょうか。	特記仕様書23-11-4-2(8)ずり処理工 1)定義について、「掘削により生じたずりの掘削切羽から更植IC 資機材置場までの運搬、積替え、自工区外盛土場への運搬、敷均し」と、ずりの自工区外盛土場への運搬はずり処理工に含まれる内容の記載があります。正しくは「掘削により生じたずりの掘削切羽から更植IC 資機材置場までの運搬、搬入、敷均し」です。なお、上記の内容は5/25に交付図書を訂正しております。
3	金抜設計書 特記仕様書	単価項目2-(4) 捨土掘削土砂B(A)の数量には、特記仕様書23-4-1用・排水溝で発生する数量は含まれているのでしょうか。捨土掘削土砂B(A)の設計数量3477m3の数量計算根拠・内訳をご教示下さい。	単価項目2-(4) 捨土掘削土砂B(A)の数量には、特記仕様書23-4-1用・排水溝で発生する数量を含んでおります。設計数量に基づき、貴社の施工計画にてお考えください。
4	技術提案書 作成説明書	2-(4) 捨土掘削土砂B(A)に技術提案の内容を反映させる場合には、設計書の数量で費用を割り返して見積単価を設定するのでしょうか。	設計図書に示す設計数量に基づき、費用を計上してください。設計数量に増減が生じた場合については、契約書に基づく設計変更の対象となるものとお考えください。
5	特記仕様書	P.52(5)インバート掘削に関して、掘削する地山強度は、いくつを想定して工程を算出すれば宜しいでしょうか。	設計図3/121に示す条件でお考えください。
6	設計図 83/121	ロックボルト形状について耐力290KN以上、自穿孔ボルトとありますが、ナットがM24となっております。自穿孔の高強度に関しては、R32となりますのでご確認お願いします。ロックボルトがR32の自穿孔ボルトとなった場合、ナットサイズがR32×H50になるため、座掘深さ50mmでは納まりません。また、逆さナットR32とした場合は、高強度ボルトでの施工実績はありませんのでご確認お願いします。	設計図83/121において、ナットの形状寸法及び座掘深さの記載に誤りがあります。正しくはナットの形状寸法が「R32」、座掘深さは「100mm」です。なお、上記の内容は5/25に交付図書を訂正しております。
7	設計図 83/121	ロックボルト頭部処理工において、材料表に記載されているコンクリート削孔Φ250×50mmではコア抜きできません。削孔径Φ200、ベアリングプレート寸法Φ180に変更しても宜しいでしょうか。	設計図83/121において、コンクリート削孔の記載に誤りがあります。正しくは「コンクリート削孔Φ250×100」です。なお、上記の内容は5/25に交付図書を訂正しております。削孔径については、設計図書で示す寸法でお考えください。

8	技術提案における施工条件書	(5/7)インバート本体施工方式において、非常駐車帯区間およびSP105では、インバートの閉合が未了の状態、他区間に着手する提案は不可とありますが、複数班施工により、非常駐車帯区間、SP105の施工を止めずに他工区でインバート本体の掘削作業を行うことは可能でしょうか。	別添1「技術提案における施工条件書 5/7施工方式」で示している内容は、SP105及び非常駐車帯区間では、掘削からインバートの閉合までを連続して施工する条件です。よって、当該区間の閉合が未了な状態で他区間の着手は不可ですが、複数班での施工を計画する場合は、当該区間の閉合までの連続作業に影響を及ぼさないことを条件に、他区間の着手は可能です。
9	設計図 22/121	インバート・覆工受け台設置図において、SP76の麻績IC側に覆工受け台の記載がありませんが不要と考えて宜しいでしょうか。	質問事項のSP76麻績IC側の覆工受け台は、過年度工事で実施済みのため、不要とお考えください。
10	特記仕様書 設計図 53/121	特記仕様書P.64～65(19)撤去工T1-CP54(4)(T)において、多孔陶管の処分について記載されています。一方、設計図53/121支障物配置計画図(2)トンネル部管路工・撤去工 数量表右下に多孔陶管は撤去後、再利用する計画である、と記載されています。処分・再利用のどちらでしょうか。	設計図53/121支障物配置計画図(2)トンネル部管路工・撤去工 数量表右下に「多孔管は撤去後、再利用する計画である。」と記載しておりました。正しくは、特記仕様書23-11-4-2(19)撤去工に示すとおり、再利用は行わず、撤去・処分となりますので、「多孔管は撤去後、再利用する計画である。」の記載を削除します。 なお、上記の内容は5/25に交付図書を訂正しております。